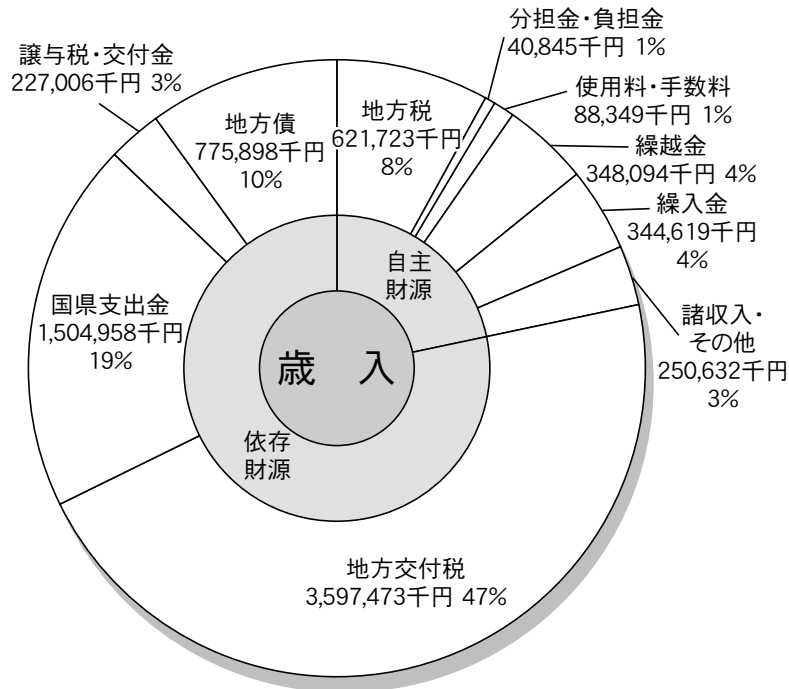


災害に強い町づくりを推進!

～平成19年度一般会計決算～

厳しい財政状況の中、行財政改革を推進し、住民が安心して暮らせる環境を整備しました

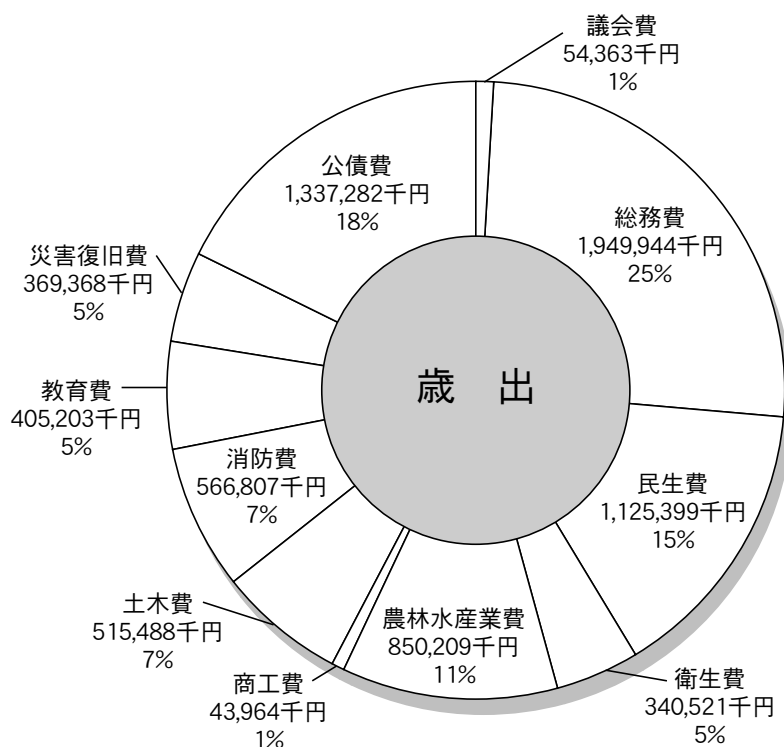


歳入 78億円

前年対比0.2%の減 自主財源は21%

税制改正により、地方税が六千三百万円増加していますが、特別交付税の合併措置分の減やバイオマス実験事業の初期投資終了による諸収入の大幅な減があります。

また、新規事業の道整備交付金事業や防災行政無線施設整備事業による国県支出金、地方債の増により、歳入総額では、前年比が僅かな減となっています。



歳出 75億6千万円

前年対比0.8%の増 公債費は4%の減

普通建設事業費が四億六千万円の大増になっています。特に防災行政無線施設整備により、町内全域で災害時の緊急放送などが伝達でき、住民が安心して暮らせる生活基盤が強化されました。

また、今後社会経済を取り巻く状況は、大変厳しいと予想されますので、更なる行政改革を推進し、必要な行政サービスが提供可能な財政構造の構築が急務となっています。

平成19年度に行われた 主な事業をご紹介します。

事業費の内訳

①は国庫補助金 ②は県補助金
③は起債 ④は一般財源
⑤は地域振興基金

防災行政無線施設整備事業

万が一の非常災害に備えて、いち早く正確な情報を伝えることで、住民が安心して生活できるようになりました。

事業費3億4,111万5千円

①1億6,578万円 ②1億7,360万円
③173万5千円



町道整備事業

地域の幹線道路である町道の改良、舗装等を行い、交通の利便性と安全性が確保されました。

事業費3億3,710万円

①1億4809万9千円 ②1億8,310万円
③590万1千円



大渡ダム独身寮跡地購入事業

借地料を支払っていた土地を購入し、老朽化が懸念されるふたば保育所の建設予定地となっています。

事業費9,690万8千円

①9,690万8千円



テレビデジタル化施設整備事業

平成23年のアナログ放送終了に伴い、視聴環境を整備するため、テレビ共聴受信施設の改修工事に対して、平成19年度は1カ所の助成をしました。

事業費260万7千円

①34万1千円 ②226万6千円



学校耐震補強事業

子どもたちが安心して学校生活が送れるように、長者小校舎の補強工事と大崎小校舎の耐震診断を行いました。

事業費4,377万5千円

①2,654万5千円 ②722万9千円
③300万円 ④700万1千円



資源循環林等整備事業

森林資源を有効に活用した林業による地域振興のために、間伐や作業道の整備に対して助成を行いました。

事業費2,698万4千円

①1,798万9千円 ②899万5千円



新しい林業を掘りおこせ！

バイオマス実験事業



仁淀川町が取り組む『仁淀川流域エネルギー自給システムの構築』（通称バイオマス実験事業）は、森林に放置されている林地残材、間伐未利用材などを収集し、細かく砕いた

後、発電エネルギーや木質ペレットを製造し、流域の施設で利用する仕組みを構築しようとするものです。今回は、その仕組みの中の「収集運搬」の部分について説明します。

必要部分だけを切り分けて出荷し、残った部分はそのまま山へ棄てられています。その結果、森林の環境は低下し「森林のもつ多面的機能」が十分発揮できない状態になっています。

仁淀川町ではこの林地残材に着目し、これらをエネルギーに転換させるためのガス化発電施設と、石油に代えての燃料となる木質ペレットの製造工場を佐川町にある㈱ソニア敷地内に設立し、平成十八年五月から稼働させています。

仁淀川流域で発生した林地残材は、仁淀川森林組合佐川破碎場で一トあたり三千円で受け入れ、専用の機械でおが屑状に粉碎し、チップにしてから隣接する発電施設とペレット製造工場に搬入し、エネルギーへと変換されます。

こうして林地残材を活用することにより、エネルギー

ギーの生成だけでなく、森林の整備が進むことにより、本来の「森林のもつ多面的機能」を取り戻すことにも繋がります。

これらの新しい取り組みを、林業収入のひとつとして確立するには、山で発生した林地残材を佐川町の破碎場まで運ぶための流通の方法や、それにかかるコストの低減化など多くの課題も残されています。

次回は、この林地残材による発電や、木質ペレットの製造などエネルギーを作る工程を詳しく紹介します。

林地残材の受け入れについて

バイオマスエネルギー源となる林地残材は仁淀川森林組合佐川破碎場で受け入れを行っています。受け入れ価格は1トあたり3,000円ですが、森林環境整備への報償として地域流通商品券が別に1トあたり3,000円（業者等は1,000円）分支払われます。

なお、林地残材は仁淀川流域の山林で発生したものに限りです。

出荷される方は必ず事前に仁淀川森林組合佐川事務所まで連絡をしていただきますようお願いいたします。

（電話0889-22-7316）

バイオマス豆知識
『森林のもつ多面的機能』とは？

「森林のもつ多面的機能」とは、林業などの経済的な機能のほか、生態系の保全、地球環境保全、土砂災害防止、水資源の貯留、更に森林浴などの保健機能や学習教育的機能などもあげられます。人間のみならず地球上の生物全体の存続に係る基幹的な機能を持っていると言えます。

エコツリーで商店街を元気に 商工会が地域流通商品券発行

仁淀川町商工会では、八月一日より地域流通商品券

「ecotree（エコツリー）」の運用を始めました。

地域流通商品券を利用することで町内消費を拡大し、地元商店街の活性化を図ろうと考案されたもので、町内約七十の加盟店で使用するこ

とができ、有効期限は六カ月です。

現在、仁淀川町ではこの商品券を「仁淀川町流域エネルギー自給システムの構築」（通称バイオマス実験事業）の普及活動の一環として利用を開始。（8項に関連記事）森林の整備が進み、発生した林地残材をバイオマスエネルギーとして利用することでCO₂削減に努め、更には商店街の活性化に繋がるといふ一石二鳥の効果を発揮しています。



500円と1000円の地域流通商品券（左）と加盟店ステッカー（右）

今後は様々な場面で広くエコツリーが利用され、商店街の活性化に繋がることが期待されています。

地域流通商品券の名称は町内の中学生から募集し、その中から池川中学校三年生の片岡佑人君の「ecotree（エコツリー）」が採用されました。

森林・河川整備の必要性学ぶ



220人が熱心に耳を傾けたシンポジウム

森と川の里シンポジウムに220人

八月三十一日、中央公民館で「仁淀川の緑と清流を再生する会」の七周年記念シンポジウム「森と川の里・仁淀川町に生きるために」が開催され、会場は県内外からの参加者二百二十人で超満員となりました。

開会行事では、「再生する会」の奥田英雄会長のあいさつの後「四国の水・森に感謝キャンペーン」で寄付をいただいたアサヒビール四国地区本部の古田土俊男本部長や藤崎富士登町長が来賓あいさつ。

基調講演では、長野県黒姫で森林保全に取り組む作家、C・W・ニコルさん

が「ふるさととは緑なりき」と題して講演。自らが手を入れながら育てた緑豊かな森や、自然に親しむ子どもたちの映像、森で聞こえる鳥の鳴き声や川のせせらぎの音を流し「森を保護することは、自然のままに放置することではなく、人の手を加えて森に光や水が流れる場所を作ることが必要である」と訴えました。

続いて登壇した京都大学の竹内典之名誉教授は、池川地区で実験しようとしている間伐による明るい森づくりの取り組みについて紹介しました。

パネルディスカッションには、尾崎正直知事や西日本科学技術研究所の福岡脩文所長、銘建工業の中島浩一郎代

表、アウトドアライター

の天野礼子さんが参加。

狩山川や安田川での近自然工法による魚道や河川整備が紹介され、川の再生や森林の作業道整備や木質バイオマスの活用などについて意見交換を行いました。

参加者からは「自然は心を和ませます。保護とは放置ではない。私も農業を営んでいるが、田畑が作っているものは、作物だけではない、心も作っていると思っていたが、それを堂々と言えるのは、本質を理解しているからだだろうと思った。再度、自然というものを考える良い機会となった」「森は再生できることを実感した。人間が手を入れることが大切」などの感想が寄せられました。